

金融EDIにおける 商流情報連携の検討

～消費財流通業界の取組み(2014実証) 抜粋～

2016年 8月 4日

ソリューション第2部 新規事業グループ

■流通システム標準活用 【決済情報と商流情報の連携】

●金融EDIを活用した効率化の検証

- × 現在、流通業界では新たな標準仕様である“流通BMS”や旧来の標準仕様である“JCA手順”を利用したEDIやEOSにより、商流情報をデータ交換する事で、人手による処理（伝票情報のパンチ処理、伝票情報との突合せ処理 など）をコンピュータを利用した自動処理等に移行し、業務処理の効率化や高度化を実現している。
- × しかし、実際の入出金情報と商流情報の突合せの段階で、コンピュータによる自動処理が行われていない業務（備品の購入、建屋の賃借、物品の配送など、様々な経費処理）が多くある。
- × これには、様々な要因があるが、システムの観点から整理すると、金融EDIの入出金メッセージ等で得られる情報項目と、社内での管理項目の粒度が異なる事が大きなポイントであると考えられる。
- × そこで、金融業界における国際標準（ISO20022）のXMLメッセージで、拡張されたEDI情報欄を活用し、総合振込→入金通知の金融EDIで流通業における各種決済関連業務の効率化を検証する。

2014年度 共同実証概要

□共同実証の目的

- 流通業界における決済（入金処理）業務の効率化の検証
銀行を経由する金流情報への添付拡張を実現することにより、企業の消込等業務効率化の検証を行うこととする。
 - 売掛金消込業務、販売条件・リベート入金管理、（経費消込）業務において、総合振込(Pain)と入金通知(Camt)のEDI情報欄を活用することによる効率化の検証を行う。
 - ✓ EDI情報欄を使用して、より確率の高い自動突合を行うために、現状では不足している“いつ、誰から、何の為の金”であるかという情報を交換する。
- インターネットを利用する際のセキュリティ要件の整理
 - 証明書や署名、暗号化等によるセキュリティなど、実運用に向けた課題・問題の抽出を行う。

□実証参加企業

- 金融機関（みずほ銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行）
- 小売3社（アタックスマート、イオン、コメリ）、卸4社（花王カスタマーマーケティング、加藤産業、タカコー、山星屋）が参加。

商流EDIと金融EDIの連携とは？ (まずは、利用者目線で！)

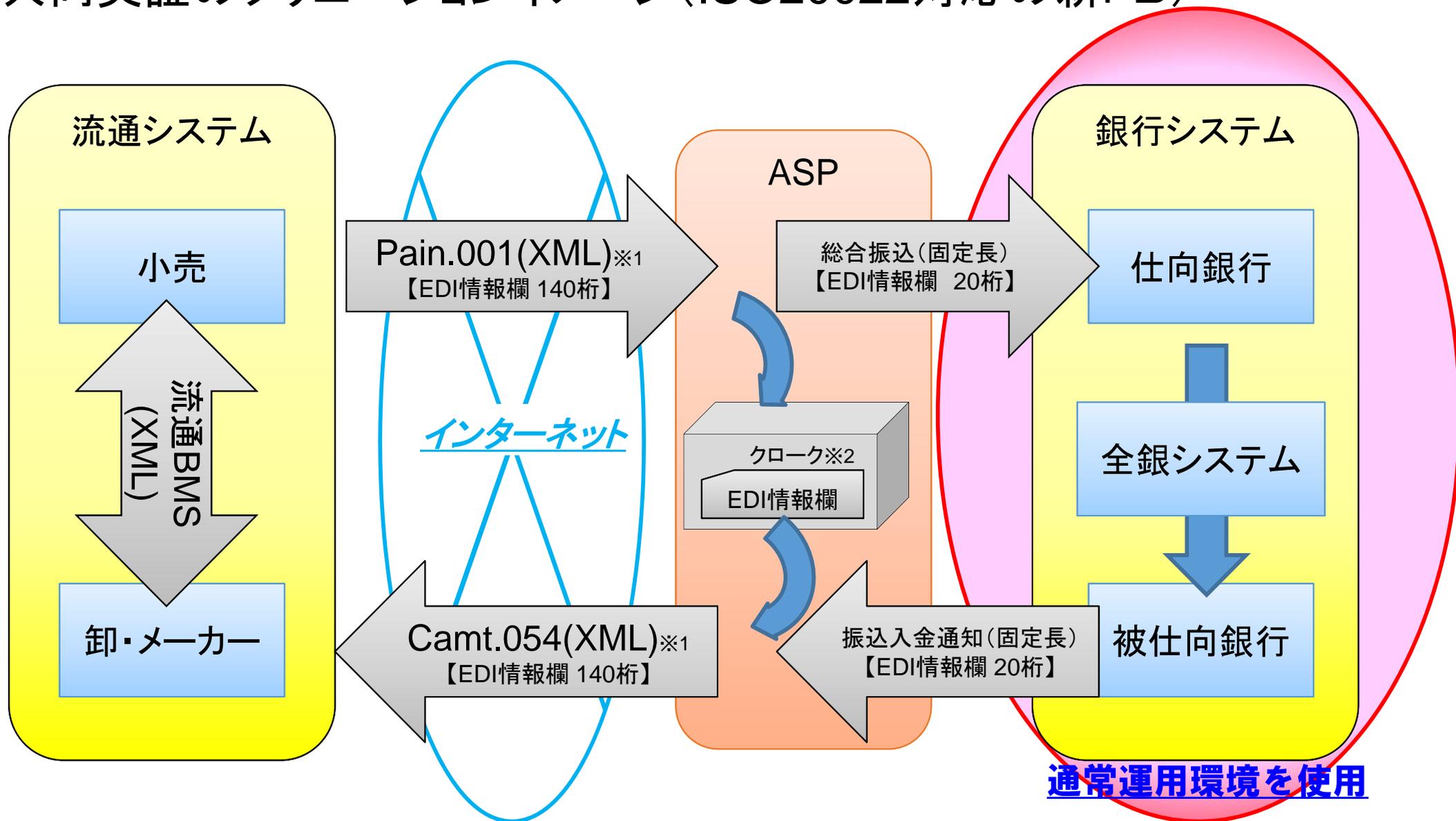
■ 「EDI情報欄」の有効活用！

● 国際標準（ISO 20022）でデータ領域の拡張

- ＊ 全銀手順の固定長メッセージでは、ユーザで自由に使用できる「EDI情報欄」は20桁となっていた。このデータ項目は請求または支払メッセージと、実際に入金された情報を簡便に結びつけるマッチングキー等をセットし、売掛消込作業効率化のために設けられました。しかし、項目長の短さや請求／支払を含めたEDI普及の遅れなどから現時点で本来の目的で使用されている例は殆どありません。
- ＊ SWIFTのXMLメッセージや第6次全銀システムでは、既に140桁繰返しありの項目として定義され、様々な情報をセットできるようになりました。
- ＊ 入出金情報と商流情報の突合せの段階で、商流情報で相対の企業と交換していた各種データ項目をキーにした消込作業を行う為に、**拡張されたEDI情報欄を活用**し、総合振込→入金通知の金融EDIで流通業における各種決済関連業務の効率化が可能となります。

共同実証ソリューションイメージ

□ 共同実証のソリューションイメージ (ISO20022対応の新FB)



※1: 「pain. 001 (総合振込)」及び「camt. 054 (振込入金通知)」は国際標準 (ISO20022) のXMLフォーマット

※2: XMLメッセージの140桁を預り、20桁以内の引換コードを渡す

金融EDIにおける“EDI情報欄”活用による効率化の実証

2014年度の実証内容は以下の業務を実施

- [実証内容Ⅰ] 売掛金入金管理
- [実証内容Ⅱ] 販売条件・リベート管理

2015.02に追加で、

- [実証内容Ⅲ] 経費支払業務（物流会社の売掛金入金管理業務）

上記につき現状の業務フロー、実証による業務フローなどを整理

実証内容 I -1 売掛金入金管理[概要]

卸・メーカー

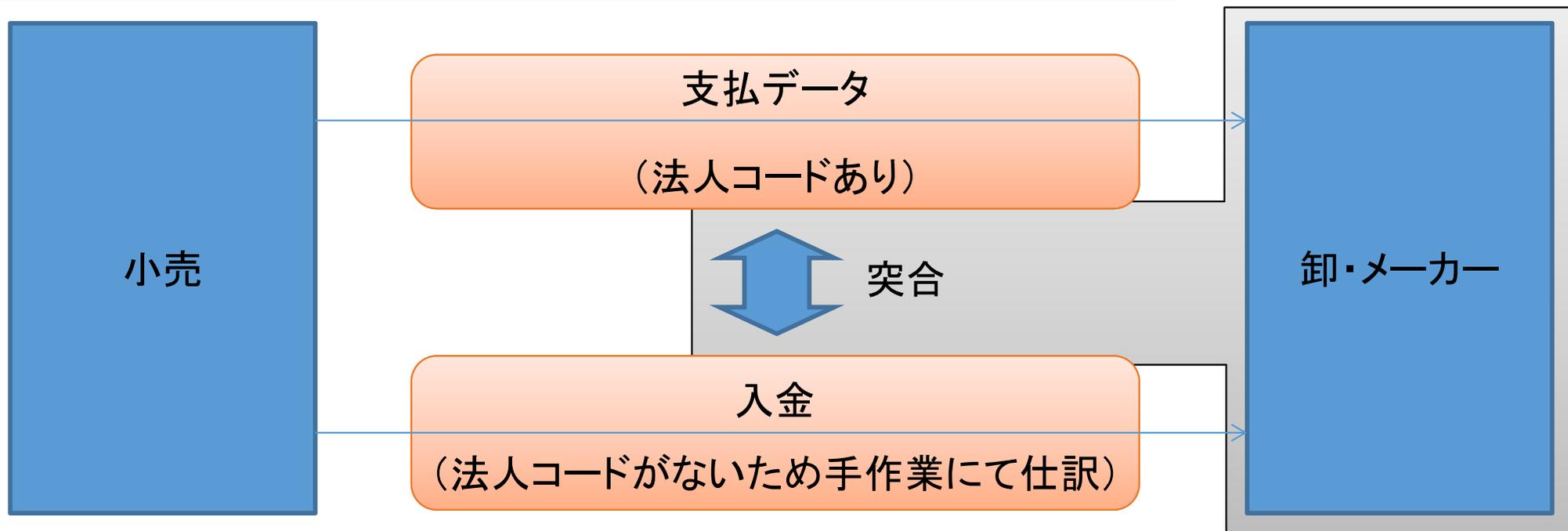
■現状の作業量(目安:大手卸)

約550件の入金を月1、2回×法人別

■現状の作業概要

支払データの法人コードと、実際の入金金額を突合するため、入金金額を法人毎に手作業にて仕訳し照合作業を実施。

1対1で突合出来ない場合は、手動で確認作業を実施している。



実証【売掛金の消込業務の効率化】結果

□ 作業時間短縮時間

- 卸A社： $8,400分 \times 12ヶ月 = 1,680時間 / 年$ 削減(上位取引 700件)
- 卸B / C社：現状かなりの作業を様々な情報から前処理しているため業務の進め方を変更しないとすると効率化されない。
- 卸D社：過去データ保存期限が過ぎていたため実検証できず。

□ 主な考察

- 商流情報と決済情報を連携・融合させた、新たな銀行サービス(ニュービジネス)への発展という可能性もでてきた。
- 実証だけで終わることなく、早期に実運用できるよう、色の付け方や種類等、標準化のための体制作り・推進を望む。
- 振込入金通知は、事前準備した入金予定金額との自動確認利用が考えられ、現在の銀行サービスと比較できる。
- 支払額の明細を確認出来るため、小売様への問合せ等が削減できる可能性があり、手間(人件費)も省ける可能性がある。 ※卸D社

卸A～C社：大企業、卸D社：売上高 約6億、小売A・B社：大企業、小売C社：売上高 約100億

実証【売掛金の消込業務の効率化】結果

□ 今後の課題

- EDI情報欄の活用方法については実証時のアンストラクチャー(140桁固定)では拡張性への課題が考えられるためストラクチャーでの展開が望ましい。
- EDI情報欄のBase64(※)の使用ではエンコード・デコードの際の文字コードの考慮(文字化け)が企業間で必要となる、等調整事項が発生し標準化にはそぐわない。
※MIMEで定義された、バイナリデータをテキスト化(エンコード)する方法の1つ
- EDI情報データへの各詳細情報をセットする仕組みの欠如
- 流通BMSの支払明細と金融EDIで通知される明細を自動で照合/消込出来る製品が必要 ※卸D社
- 社内証憑保存の見直し(紙保存から、電子保存へ)

□ 今後期待される効果

- 振入金通知までに入金予定金額を準備することで、入金金額の自動確認、仕訳記帳に繋がられる。

卸A～C社:大企業、卸D社:売上高 約6億、小売A・B社:大企業、小売C社:売上高 約100億

実証内容Ⅱ-1 販売条件・リベート入金管理[概要]

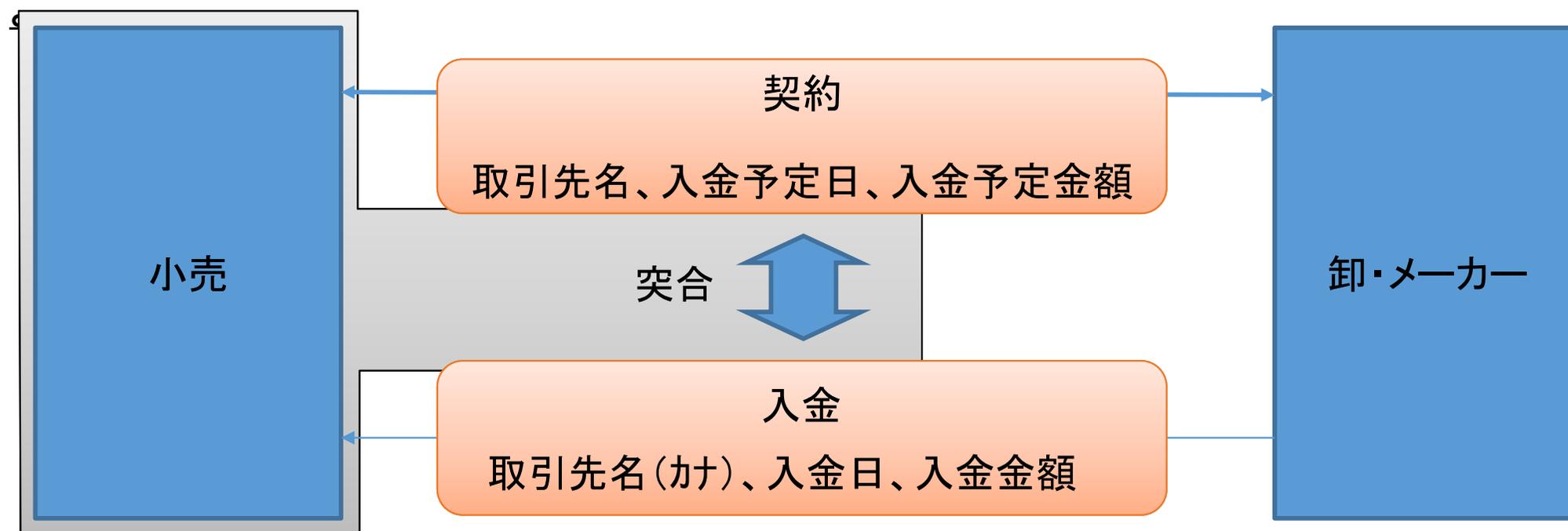
小売

■現状の作業量(目安:GMS)

約2,500契約/月 (入金は約1,300件/月)

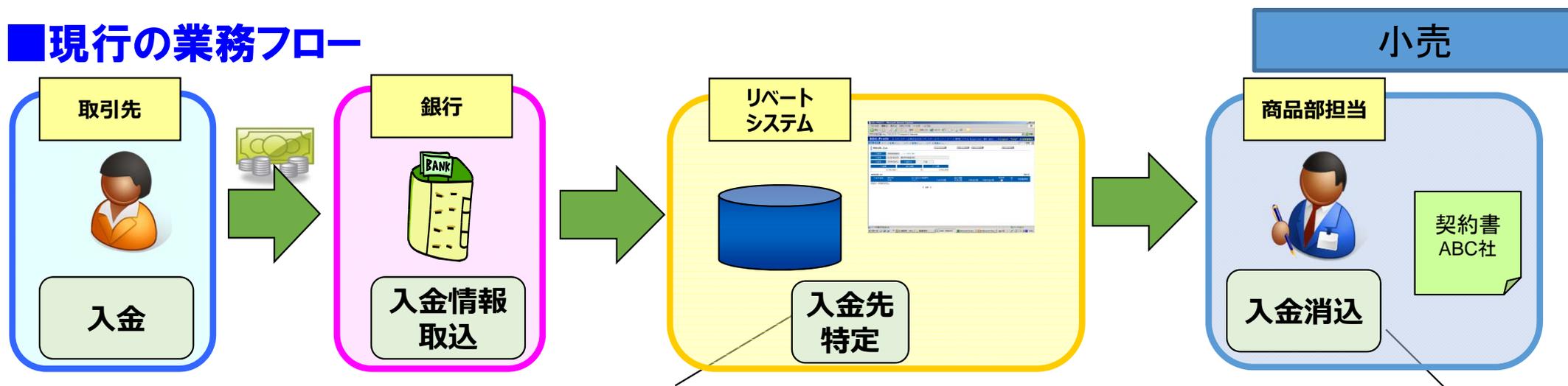
■現状の作業概要

入金時の名義人(カナ文字)をもとに、契約時の契約情報と突合を行い、消込を実施。
カナ文字での突合のため1対1で突合出来ない場合は、手動で確認作業を実施している



実証内容Ⅱ-2 販売条件・リベート入金管理[現行の業務フロー]

■ 現行の業務フロー



<入金先特定>

入金日	名義人	入金金額
7/20	(カ I-ビ-シー	1,000,000

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

入金時の名義人より入金先を自動特定

<入金消込>

[入金情報]

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

[契約情報]

取引先	入金予定日	入金予定金額
A B C 社	7/20	50,000

契約情報の取引先、入金予定日と合致する入金情報を検索し、ヒットしたものから、入金消込を行う

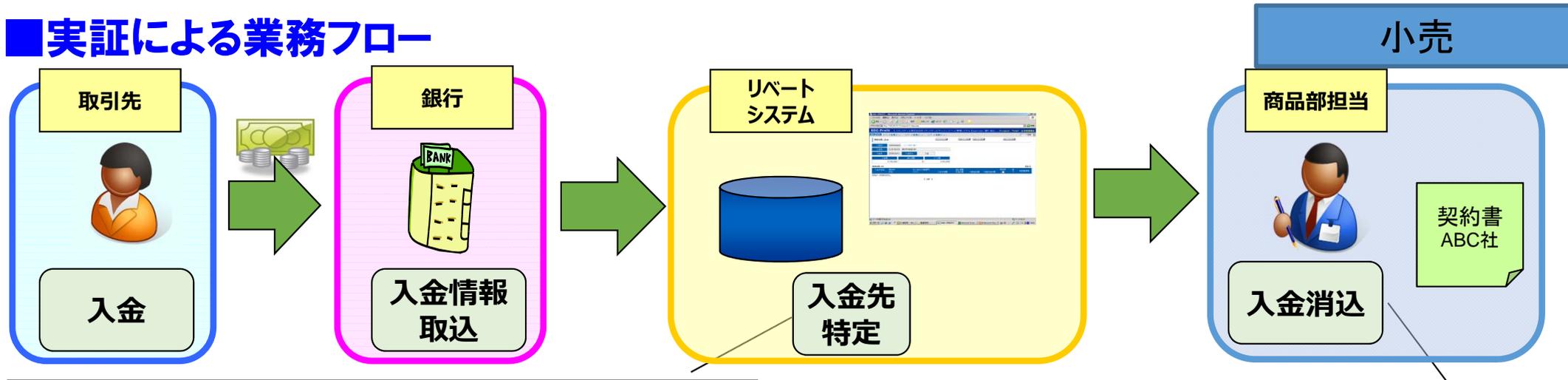
問題・課題

・カナ文字列での突合のため入金先の特定ができない場合がある
 (候補となる入金先が複数ある。候補となる入金先がない)
 ※「候補が複数」となるのは、異なる法人でカナ名が同じ場合の他、
 同一法人に対し複数の入金先登録が存在する場合がある

・入金日、入金先で集約されるため、どの入金から消し込めばよいのか判断が付きにくい(入金予定日に変更になる場合もある)
 ・入金先の特定が正しく処理されない結果、入金情報の入金先が正しくならず、消し込みが出来ない場合がある

実証内容 I-3 販売条件・リベート入金管理[実証による業務フロー]

■実証による業務フロー



<入金先特定>

入金日	名義人	入金
7/20	(カ I-ビ-シー	1,000,000

契約No : 10001 金額 50,000
 契約No : 10002 金額 30,000
 :

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

契約No : 10001 金額 50,000
 契約No : 10002 金額 30,000
 :

契約Noより入金先を自動特定

<入金消込>

[入金情報]

入金日	入金先	名義人	入金金額
7/20	A B C 社	(カ I-ビ-シー	1,000,000

契約No : 10001 金額 50,000

[契約情報] ⇄ システム内で自動的に紐付き

取引先	契約No	入金予定日	入金予定金額
A B C 社	10001	7/20	50,000

消込を行う契約情報呼び出し、入金消込を行う。

(内部的に入金情報との紐付けが完了しているため、入金情報を検索する必要なし)

実証【販売条件・リポート処理業務の効率化】結果

□ 作業時間短縮時間

- 小売A社：9,250時間(+1,000時間)／年削減（グループ全体の場合）
- 小売C社：667時間／年削減（現状の47%削減）

□ 主な考察

- 今回、例外入金までは実証を行っていないが、振込入金通知に情報付与が可能となることを鑑みると、通常入金時以上に、例外入金時の入金消込業務の効率化に大きく貢献するものと推測される。
- 新標準を使用すれば詳細情報を伝えることができ、これまでの補完処理（銀行側のサービスや利用者側の開発等）が不要になる。
- 全ての仕訳が自動化できるとは思われないが、弊社の場合、仕訳データの約82%が自動化できると思われるため、リポート処理業務全体においては、約50%の削減効果が得られと推測できる。 ※小売C社
- リポート処理業務が精算業務全体に占める割合は、弊社の場合、時間単位で23%ほどであるため精算業務全体に対しての削減効果は、10%強が見込める。 ※小売C社

卸A～C社：大企業、卸D社：売上高 約6億、小売A、B社：大企業、小売C社：売上高 約100億

実証【販売条件・リポート処理業務の効率化】結果

□ 今後の課題

- 管理単位(粒度)を小売と卸・メーカー間で揃えていくこと。ならびに、管理単位(粒度)が揃っていなくても自動入金消込が実現可能となるよう、連携項目を再考することが必要となる。
- EDI情報欄のBase64は様々な調整が発生する為、標準化は困難。
- 標準化を進める為に、導入推進体制の整備が必要
- 前提条件として、企業間で関連付けできる項目(今回の場合契約No)が必須であり、項目の標準化及び項目情報伝達の効率化によって、さらなる効果が得られると思われれます。 ※小売C社

□ 今後期待される効果

- 卸・メーカーから、小売に対して発行している計算結果通知書が不要となり、ペーパーレスならびに省力化が図れる。
- 今回の共同実証は、流通情報システムと金融情報システムという双方高度化されたシステムの垣根を超えたプラットフォーム作りの試みであり、今回の共同実証を含め更なる多様性に順応できるものと思います。 ※小売C社

卸A~C社:大企業、卸D社:売上高 約6億、小売A、B社:大企業、小売C社:売上高 約100億

実証内容Ⅲ 売掛金入金管理(流通業の経費支払)[概要]

■現状の作業量(目安:大手物流会社)

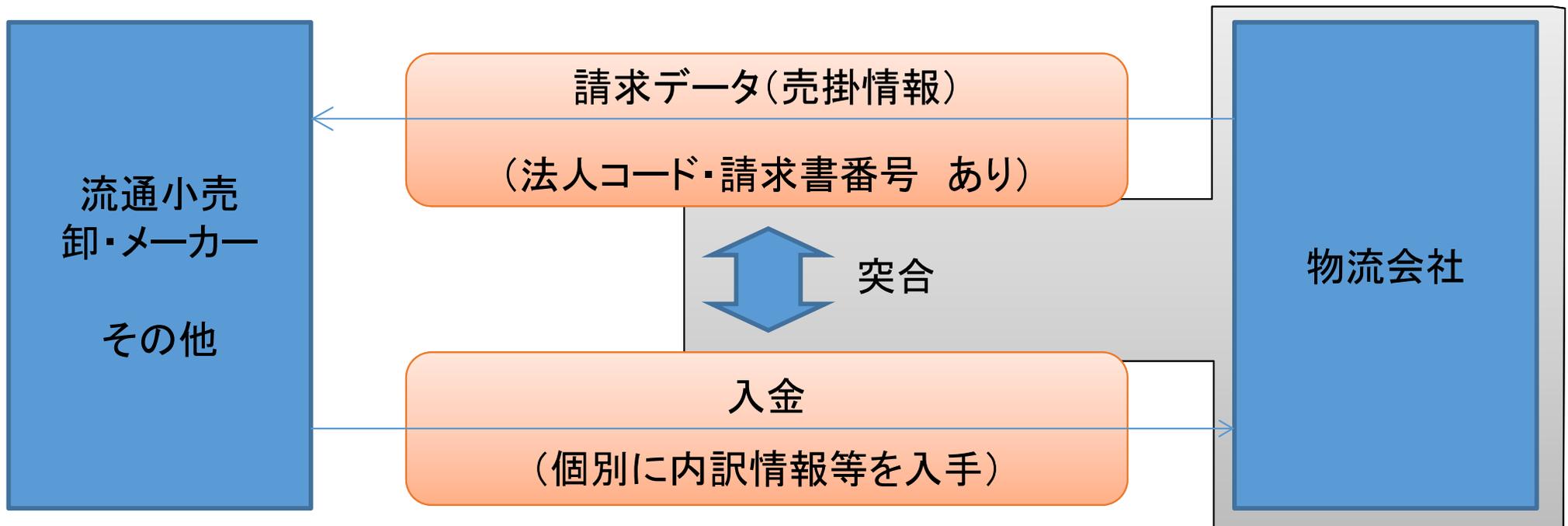
物流会社

約4000件の入金を月1回処理している(自動消込対象外のみ:全体の約8%)

■現状の作業概要

請求データの法人コード・請求書番号毎に、実際の入金金額を突合するため、入金金額の内訳情報を取引企業毎に入手し、売掛管理情報と手作業にて照合作業を実施。

1対1で突合出来ない場合は、電話等での内容確認作業を実施している。



実証内容Ⅲ 売掛金入金管理(流通業の経費支払)[概要]

物流会社

- 請求書番号、支払先名称、支払先コード、支出内容、支払金額、担当部署で効率化・高度化が可能？

お支払通知書 作成日 2014/07/22 1頁

振込日 2014/07/15

A社 お振込後に自動 F A X にて振込内容を通知することで個別問合せ等へ対応

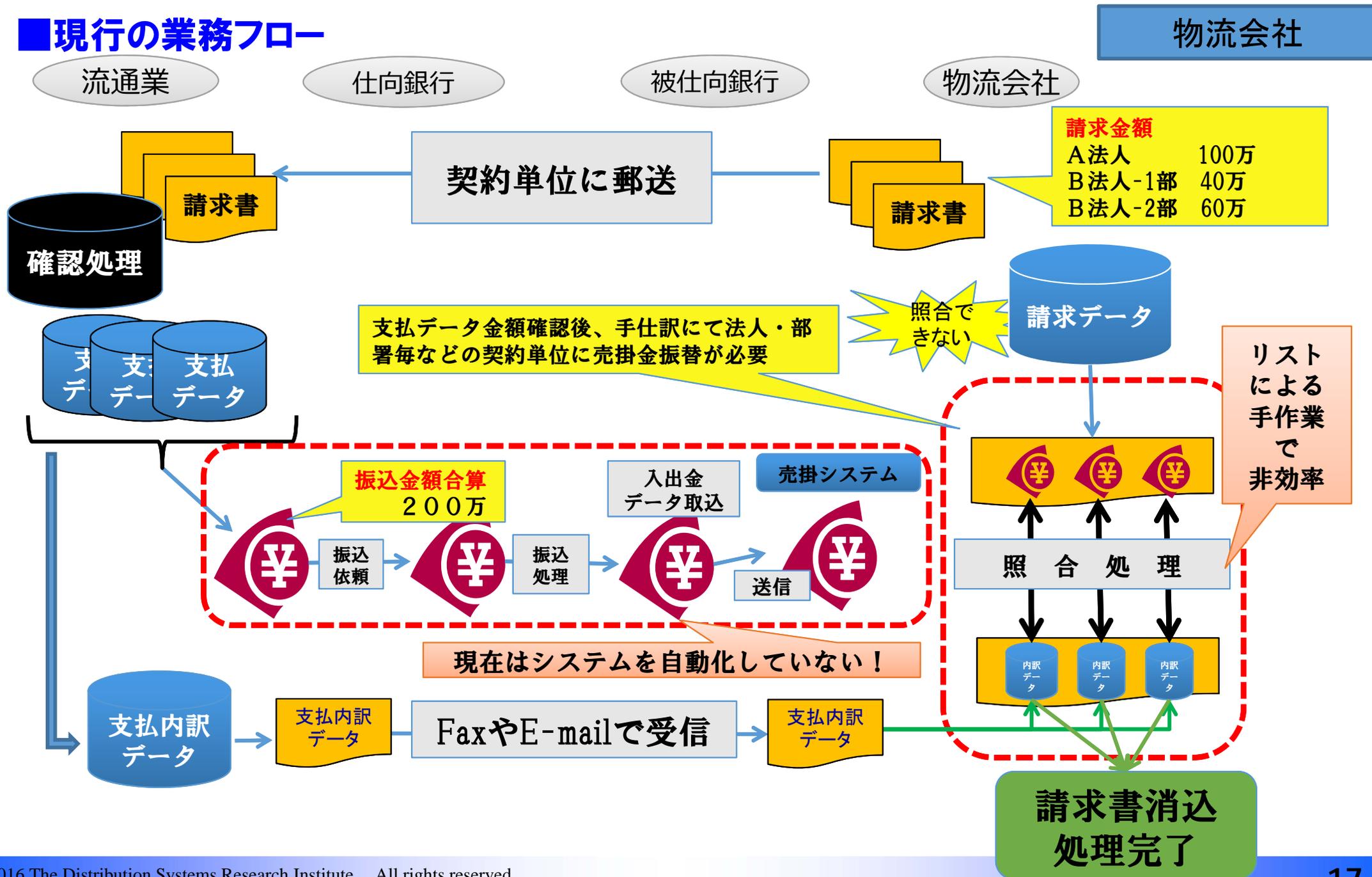
請求NO	取引日	税込金額	担当部門 担当者	備考
1217002236	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門3F) 055878308
1217002237	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門4・5F) 55817686
1217008068	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門3F) 055454109
1217008068	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門3F) 055454109
1217008069	2014/06/15		CS部門 業務推進	宅配便送料 (CS部門4・5F)

B社、DBよりツールにて作成し、連絡

支払先コード	支払先名称	会社名	申請部署	申請部署名	請求書番号	入力金額
KA00003119	(株)名古屋主管	株式会社	0001000	大高	48012	1
KA00003119	(株)名古屋主管	株式会社	0001000	大高	48013	1
負担部署	経費負担部署名称	支出内容	支払金額	伝票番号		
0000001000	大高	ギフト	1	VJBG201405820201		
0000001000	大高	事務所	1	VJBG201405820219		

実証内容Ⅲ 売掛金入金管理[運用業者の現行業務フロー]

■現行の業務フロー



実証【販売条件・リベート処理業務の効率化】結果

□ 作業短縮の可能性（宅配事業者にて対実証企業との作業時間を正確に捉えていなかったため、自動ヒット率等で整理）

➤ 小売A社：**自動消込率 69.2%、消込補助有 20.1%**

✓ 今回参加のA社の入金消込に、約7.5時間／月（2014年12月の実績）を要している。仮に自動化が実現出来れば、この大半を削減可能である。

➤ 卸売A社：**自動消込率 39.8%、消込補助有 58.4%**

□ 主な考察

➤ 金融機関から得られる「金額」や「振込依頼人名」などの情報だけでは自動消込が不可能であったが入金分に関しても、今回の共同実証で定義した「EDI情報欄」の内容が付加されることにより、90%以上のデータについて自動化処理可能となることを確認した。

➤ 今回の実証対象企業は、「請求書番号」などの情報が比較的正確に管理されている企業であり、現時点で他の企業においては「支払金額」のみの情報提供しかない企業もある。自動化処理を可能とするためには、請求書番号や金額と言った情報を正確に管理し情報交換できることが前提となる事は留意が必要である。

実証【販売条件・リポート処理業務の効率化】結果

□ 今後の課題

- 現在、物流事業者と支払企業との間では、請求書情報のEDI化はおこなわれておらず紙ベースである。支払企業では請求書情報等をシステムへ入力する作業を余儀なくされており、効率化や精度向上のネックとなっている。
 - ✓ 双方の業務効率化の観点から、請求書情報のEDI化など、紙から電子的な情報交換の促進が望まれる。
- 付加する詳細情報(EDI情報欄)について、業界としての標準化及び運用規定などが定める事が必要

□ 今後期待される効果

- 金融EDIとの連携で、今まででは自動化不可能であった事が、実運用として実施出来れば、効率化・高度化に繋がる活用場面が全業界で考えられる。
- 電話等の問い合わせ対応の削減(人的な作業を削減し、正確な情報交換を行う事で激減すると想定される)
- 物流企業とのEDI化による精度の向上
 - ✓ 各段階(利用時、精算時、など)での情報を電子的に交換し管理が出来ていれば、イレギュラー対応も比較的容易に解決する事が期待できる。



<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>